

# 法遍寺 から大切な 皆様へ

2024年2月1日

日蓮正宗 年間方針

折伏前進の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

講中一結・万難を排して

折伏実践

年間実践テーマ

① 勤行・唱題で歡喜の活動

根本を欠かさず家族

そろって弛まず実践

② 講中一結して折伏実践

「異体同心」・「師弟相對」

の信心で

広宣流布に邁進

③ 支部総登山と寺院参詣

で人材育成

死身弘法の決意と歡喜

の生活・切磋琢磨

しながら家庭訪問

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(電話番号：0561-54-9226)

相談無料 <https://hohenji.net/>

2024年1月1日 新年勤行会の様子

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ「日々弛まぬ信心のもと、妙法広布のお役に立とう」

道歌に「気もつかず 目にも見えねどいつとなく ほこりのたまる袂なりけり」とある。気がつかず蓄積することの怖さを言い表したものである。大聖人は「月々日々につよ(強)り給へ、すこしもたゆ(弛)む心あらば魔たよりをう(得)べし」(御書1397)と仰せになった。「たゆむ心」は成仏を妨げる懈怠謗法である。ここに奪命魔、奪功德の魔が、そっと忍び寄る。そしていつしか我が住処としてしまう。惰性に流された日々には信心の感激も感謝もなく、勤行も疎かに、また寺院に足を運ぶ気概もなくなってしまうのである。私たちには一生成仏という大目的がある。これを達成するには何が必要か。それはこの仏法に心底から南無すること、即ち帰依し命順することである。一生空しく過ごして万歳を悔ゆることのなきよう、仏道の実践を通し、さらに妙法広布のお役に立ち上がろう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知ろう その42)

前号に続き、「創価学会破門通告書」を掲載します。

第五 創価学会の宗門に対する背信

以上のような実情から、本年(平成三年)十一月七日、宗門としては、創価学会及びそれに同調するSGI組織の全てに対し、一切の責任を取って自主的に解散するよう、「創価学会解散勧告書」を送付したのであります。

(一)創価学会では、この解散勧告に対して、いたずらに、「大謗法の日頭一派」「傲慢と邪悪の法主」「平成の提婆達多」「仏法破壊の法主」「邪教の法主」などと、血脈法水の尊厳を冒す誹毀讒謗の限りを尽くし、法主の退座を執拗に要求するという暴挙に出ているのであります。しかも、相も変わらず唯授一人の血脈を無視して、ことさらに「大聖人直結」を主張したり、また秋谷栄之助氏が、「宗門の解散勧告書は、学会員にとっては黒い権威からの解放の宣言に聞こえた」「一方では、こうした腐敗、墮落し、謗法と化した宗門に対して、いつまでもかまってはおられない、という声もあり、まことに同感だと思えます」と発言するなどは、むしろ本宗から離反し、在家教団として独立することを企図、指向している何よりの証左であります。

(二)創価学会の昭和五十二年路線における逸脱・背反の根底にあったものは、池田氏への報告書として記された、「山崎・八尋文書」「北条文書」等の学会内部文書に明らかであります。

(続く山崎・八尋文書等の内容については、次号に掲載します。また「正しい信仰」の項はお休みとします)